

海外情報

No.6

調査者	長島 花奈
情報ソースの刊行日	2020/4/22
情報ソースの調査日	2020/5/2
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020/5/3
日本語タイトル	COVID-19 に対するリハビリテーションの必要性に関するシステマティック・レビュー速報版
情報ソース	European Journal of Physical and Rehabilitation Medicine
情報のカテゴリー	移動制限に対する介入
発信地域	ヨーロッパ
DOI	10.23736/S1973-9087.20.06329-7
URL	https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32316718/?fbclid=IwAR2nyC-DT2OSxVBCJQgTk3hvacB5047kep9OW3blCBUvgIr-Yc8xnO7Rkgs
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020/3/30 までに公表された文献から、COVID-19 に対するリハビリテーションの必要性に関する文献の情報をまとめた。 ・ 文献はいずれも、過去の文献に基づくものであり、現在の COVID-19 の感染状況を踏まえたものではない。 ・ これらの文献の主な主張は以下 3 点である。①早期のリハビリテーションは COVID-19 入院患者に適応されるべきである、②エクササイズプログラムを受けることで移動制限下の人々のフレイル・サルコペニア・認知機能の低下・うつ症状のリスクを低下させることができる、③遠隔リハビリテーションは家で過ごす人々にとっての第一選択となり得る。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つ か？	移動制限を受けているひと（特に、通所リハ・通所介護などの介護サービス利用者）のフレイル予防や、認知機能低下予防を目的とした、理学療法の介入を遠隔介入も含めて検討する必要がある。